

発行元  
東京新聞  
南千住東口専売店  
TEL5850-3699  
発行責任者  
鬼塚 佳代子  
TEL090-2657-0300

# すまいるたん



第319号  
平成27年

4月13日

## はい！東京新聞です

取材現場のつぶやき



みなさまがお住まいの荒川区は、だいたい二十万人の方が暮らしています。二十三区では少ないほうです。人口は多い方がいいと考えるかどうかは人それぞれですが、私は、町屋やコソ通りへ行くたびに、穏やかな気持ちになりました。高いビルが少ないからだと思います。まあ最近の南千住は高層マンションが増えましたが、それでも都心部と比べれば少ない方です。

人が暮らす街は、あまり寂しくてもいけませんし、かといって大きなマンションをどんどん建てて人をたくさん住まわせればいいというものでもありません。その点、南千住には回向院をはじめとした古くからの歴史があり、昭和の時代から続く商店街があり、汐入などには近代的なマンションがあります。都心部のつくられたはなやかさとは違う、郊外のベッドタウンとも違う、昔から現代に至るまで、長い歴史の中で織りなしてきた、味わい深さとにぎわいがある荒川区は、とても住みよい街だと思えます。

こうした街をつくり、残したのは、ほかでもない、荒川区にお住まいのみなさまの、街を愛する気持ちがあつた

からこそだと思えます。今月は荒川区議会議員選挙があります。ぜひとも、愛する荒川区の未来を託せる候補者を、じっくり選んで、一票を投じて下さい。

さて冒頭で「二十三区では少ない方」と書きましたが、東京は二十三区だけではありません。東京の西は多摩地区。「三多摩」とも呼びます。荒川区から電車で乗り換え無しでは行けないので、なじみが薄いかも知れませんが、れっきとした、同じ東京都です。二十六の市と三つの町、檜原村という村もあります。

最近、有名になったところの一つが、高尾山でしょう。標高五百九十九メートルと低い山です。ここが二〇〇七年に、世界的権威があるガイドブック「ミッシュランガイド」で、観光地として、最高ランクの三つ星を獲得して以来、日本中にはもちろん世界中から観光客が訪れるようになりました。実は私にとつては、小学生時代によく遠足で登った山なので、とても意外でした。東京に、登りやすくて自然が豊かな山があるというのは、たしかにぜひいたくなことです。

日暮里からJRで新宿へ行き、京王線に乗り換えれば、乗り換え時間を含めても一時間半足らず。もちろん山ですから、それ相応の山登りの身支度や準備は必要ですが、ケーブルカーもあるので、ご年配の方でも登りやすいと思います。にぎやかな街もたくさんあります。J

R中央線の吉祥寺は、デパートが多く、商店街もある繁華街で、しかも駅の近くに、動物園もある井の頭恩賜公園があります。どなたが行っても楽しめます。

歴史が好きな方には、調布と日野がお勧めです。調布は、新選組の局長・近藤勇が生まれた地。生家跡には近藤神社があります。三鷹駅からバスで行けます。日野は、新選組の副長・土方歳三、六番組隊長・井上源三郎が生まれた街で、ゆかりの記念館などが多くあります。JR日野駅周辺と、その手前の立川駅から多摩モノレールに乗り換えて行ける、万願寺駅の周辺にあります。

二十三区内とは違った、東京の顔を持つ多摩地区。このたび私は、本社社会部を離れ、多摩地域を管轄する、立川支局に転勤しました。

これを機に、荒川区のみなさまにお届けしてきた、この連載を終了します。長い間ご愛読ありがとうございました。今後とも同じ東京にいますので、私の記事、私の部下の記事が、お目に止まることもあると思います。今後とも東京新聞、そして「すまいるたん」を、よろしくお願

いします。みなさまが、この素敵な街、荒川区で、幸せな毎日を送られることを、東京の西の空の下でお祈り申し上げます。

(東京新聞 立川支局長  
〔前・したまち支局長〕 榎本哲也)